







①事業実施報告書詳細

事業実施報告書詳細

学校名 栃木市立大宮南小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1時間	教室 屋上	1 町のことを話そう。 ・地域のことで知っていることや興味のあることを話し合う。		家の近くにスーパーがあるよ。 遠くに見える建物を見てみたいな。
3時間	教室	2 まちたんけんの計画を立てよう ・行きたい場所を決め、グループで話し合う。		みんなで町のすてきな景色を探しに行こう。
4時間	市内	3 まちたんけんに行こう ・町にある素敵な物を見つける。 ・地域の人や自然と関わる。		牛の大きさに驚いたよ。 いろいろな看板があるね。
5時間	教室	4 まちのことを伝え合おう ・まちたんけんで見つけたことを伝え合う。 (発表会)		すてきな人や景色がたくさんあったよ。
5時間	パソコン室 教室	・まちたんけんで見つけたことを伝え合う。 (カルタ作り、カルタ大会)	 	調べた景色をカルタにして、みんなに教えてあげたいな。 これからいろいろ見つけてみたいね。

※ 参考

① 下野新聞記事 平成27年3月31日

地域の良さ取材、読み札手作り ふるさとカルタ完成 栃木・大宮南小2年生

<http://www.shimotsuke.co.jp/town/region/south/tochigi/news/20150331/1915643>

第3種郵便物認可

下野新聞

地域の良さ取材、読み札手作り

ふるさとカルタ完成

【栃木】大宮南小の2年生14人が地域の特徴をまとめた「ふるさとカルタ」を作製した。実際に地元を歩き回り、自然豊かな風景や商店などで働く人々などを写真と読み札で紹介している。23日には地域の人々を招いて完成したかるたをお披露目し、かるた大会を開催して触れ合った。

同校は2013年度から、その後、読み札作りから、学区外から児童を受け、挑戦。「こしよかんいろいろ」を入れて地元の人たちの協力をもらって作ったよ。得ながら特色ある教育を「うしろさんのまがおがね」を行う小規模特設校に指定されている。2年生はその1期生で、6人が学区外から通学している。

かるた作りは、さまざまな地域から通子どもたちや学校周辺の有形無形の地域の宝を知ってもらおうと初めて企画。一般財団法人都市文化振興財団の景観まちづくり学習の助成を受けた。

児童らは地元の畜産農家やスーパー、和菓子店などを訪問。また、学校で育てているヒマワリなど自然風景を自ら写真に収めた。

作品約60点を彩られていた。会場は桜やカタバミ、ミレなど春の花を始め、四季の花々と見聞違う精巧な樹脂粘土をこねて形を作った。

4月9日まで。会場は桜やカタバミ、ミレなど春の花を始め、四季の花々と見聞違う精巧な樹脂粘土をこねて形を作った。

制作した。茂木さんは染料を加えた樹脂粘土をこねて形を作った。

作る。花らしい色を出すための染料のさじ加減が難しい。楽しく作ることを心掛けた。

栃木・大宮南小の2年生

ふるさとカルタ完成

【栃木】大宮南小の2年生14人が地域の特徴をまとめた「ふるさとカルタ」を作製した。実際に地元を歩き回り、自然豊かな風景や商店などで働く人々などを写真と読み札で紹介している。23日には地域の人々を招いて完成したかるたをお披露目し、かるた大会を開催して触れ合った。

同校は2013年度から、その後、読み札作りから、学区外から児童を受け、挑戦。「こしよかんいろいろ」を入れて地元の人たちの協力をもらって作ったよ。得ながら特色ある教育を「うしろさんのまがおがね」を行う小規模特設校に指定されている。2年生はその1期生で、6人が学区外から通学している。

かるた作りは、さまざまな地域から通子どもたちや学校周辺の有形無形の地域の宝を知ってもらおうと初めて企画。一般財団法人都市文化振興財団の景観まちづくり学習の助成を受けた。

児童らは地元の畜産農家やスーパー、和菓子店などを訪問。また、学校で育てているヒマワリなど自然風景を自ら写真に収めた。

作品約60点を彩られていた。会場は桜やカタバミ、ミレなど春の花を始め、四季の花々と見聞違う精巧な樹脂粘土をこねて形を作った。

4月9日まで。会場は桜やカタバミ、ミレなど春の花を始め、四季の花々と見聞違う精巧な樹脂粘土をこねて形を作った。

制作した。茂木さんは染料を加えた樹脂粘土をこねて形を作った。

作る。花らしい色を出すための染料のさじ加減が難しい。楽しく作ることを心掛けた。

地元住民招き大会も

同校は2013年度から、その後、読み札作りから、学区外から児童を受け、挑戦。「こしよかんいろいろ」を入れて地元の人たちの協力をもらって作ったよ。得ながら特色ある教育を「うしろさんのまがおがね」を行う小規模特設校に指定されている。2年生はその1期生で、6人が学区外から通学している。

かるた作りは、さまざまな地域から通子どもたちや学校周辺の有形無形の地域の宝を知ってもらおうと初めて企画。一般財団法人都市文化振興財団の景観まちづくり学習の助成を受けた。

児童らは地元の畜産農家やスーパー、和菓子店などを訪問。また、学校で育てているヒマワリなど自然風景を自ら写真に収めた。

作品約60点を彩られていた。会場は桜やカタバミ、ミレなど春の花を始め、四季の花々と見聞違う精巧な樹脂粘土をこねて形を作った。

4月9日まで。会場は桜やカタバミ、ミレなど春の花を始め、四季の花々と見聞違う精巧な樹脂粘土をこねて形を作った。

制作した。茂木さんは染料を加えた樹脂粘土をこねて形を作った。

作る。花らしい色を出すための染料のさじ加減が難しい。楽しく作ることを心掛けた。



撮るのが大変だったけど面白かった」と笑顔で話した。かるた大会には児童のほか、保護者や地域住民10人が参加。参加者は子どもたちと一緒に和気あいあいとした会を過ごした。かるたは参加者にも贈呈され、取材に協力した畜産農家の神田誠司さん（48）は「種ノ口町のよいは、地元を好きになってほしい」と子どもたちにエールを送った。

完成したカルタで遊ぶ児童と地元の人たち

山野草本物そっくり 足利

【足利】樹脂粘土で本物の山野草そっくりな造花を展示する「山野草のクレイアート展」が30日、大橋町1丁目市民活動センターで始まった。4月9日まで。会場は桜やカタバミ、ミレなど春の花を始め、四季の花々と見聞違う精巧な樹脂粘土をこねて形を作った。

制作した。茂木さんは染料を加えた樹脂粘土をこねて形を作った。

作る。花らしい色を出すための染料のさじ加減が難しい。楽しく作ることを心掛けた。

クレイアート、四季の60点

制作した。茂木さんは染料を加えた樹脂粘土をこねて形を作った。

作る。花らしい色を出すための染料のさじ加減が難しい。楽しく作ることを心掛けた。

② 大南ふるさとカルタ（1箱で50枚）



②学習指導案

1 単元名 ときどき わくわく まちたんけん

2 単元目標

身近な地域に出かけ、地域の人々とかかわりを持ち、さまざまな場所やものを調べたり、利用したりして、それらが自分たちの生活を支えていることや楽しくしていることが分かるとともに、地域に親しみを持ち、人々と適切に接したり、安全に気をつけて生活することができる。

3 評価規準

(1) 身近な地域の人々やさまざまな場所に関心を持ち、ルールやマナーを守り、安全に気をつけて、見たり、調べたりしようとしている。

(生活への関心・意欲・態度)

(2) 行きたい場所や会ってみたい人を決め、相手や場に応じた適切な行動や、安全な行動について考えながら、活動の計画を立てて、まち探検をするとともに、それを振り返って、すなおに表現している。

(活動や体験についての思考・表現)

(3) 地域にはさまざまな場所があり、多様な人々が働いたり生活したりしていることと、地域の人々が自分たちの生活を支えていることや楽しくしていることに気づいている。

(身近な環境や自分についての気づき)

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の内容(3)(4)を受け、自分たちの住んでいる地域の探検を中心に設定した単元である。

内容(3)

自分たちの生活は、地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着を持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

内容(4)

公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用できるようにする。

ここで取り上げる地域の場所や人々とは、神田さんの牛舎、スーパーオータニ、ケーブルテレビ、まつや(和菓子屋)、公民館など、そこで働く人、友達の家や

その家族、近隣の人、神社や寺などが挙げられる。児童が地域に出て、様々な場所を見て回ったり、出会った人々と挨拶や話をしたりする活動を通して、地域の様子に関心を持ち、地域により一層親しみや愛着をもって、人々と適切に接することや安全に生活することができるようになることをねらいとしている。

本単元では、1年生で学習して身につけてきた、学校や家庭という身の回りの様子や人々とのかかわり方をさらに発展させ、自分の住んでいる地区や校区へと学習の場を広げていき、そこで様々な自然や場所、人々とのかかわり方を身につけていく。児童は生活の中で様々な体験をし、人やものとかかかわっているのだが、それを意識して振り返ることは少ない。見てみたい、遊んでみたい、もっと知りたいといった個々の児童の願いを大切にしながら探検するという活動を通して、身の回りにある自然・人・ものが自分の生活とかかかわっていることを意識し、地域の人々やそれらの場所に親しみの気持ちや愛着をさらに深められるようにしたい。

- (2) 児童の実態
省略

5 研究主題との関連

(1) 研究主題

生き生きと伝え合うコミュニケーション能力の育成
—「書く・話し合う・表現する」指導の取組—

(2) 研究主題にせまるために

- ① 「話す」「聞く」力の質を高めるための「書く・話す・表現する」指導方法の工夫改善

事前のアンケートの通り、人と話すことは好きでも、発表をすることが苦手だと児童が多い。児童が安心して発表したりできるようにするには、事前の準備と場に慣れることが大切であると考え。そのために以下の準備をすることで児童の不安を取り除き、町の良さを伝えるようにさせたい。

書くについては、カルタづくりをすることで全員が発表する機会を作る。町の良さを伝える写真と文章を紹介する文を書くことで、見通しを持たせながら発表につなげていく。

話すについては、地域の方々と話すことで、様々な人と話す機会を意図的に設けたい。町の良さを伝える物だけでなく人に焦点をあてることで、自然に話せる機会を増やしていく。

表現するでは、まとめの方法を選択させることで、発表の意欲を高めたい。グループでの発表やカルタ作りなどめあてを持たせることで、話すこと、聞くことへの意識を高めたい。

② 自己理解、他者理解につながるような振り返りの工夫

自分の行ってみたい場所でグループを組んでいく。同じ希望をもった友達と町探検の計画を立てることを通して、学習意欲を高める。写真や作成資料を書画カメラで映し出す。ICT 機器の使用により、集中力を高めていく。画像により、まちたんけんの様子で確認していきたい。また、友達の発表を聞いたり、質問したりすることを通して、自分には、気づかない町の良さや友達の良さに気づくことができる

また、地域カルタの作成に取り組む。児童の好きなカルタを写真と俳句で組み合わせ作成していく。国土交通省の景観まちづくり学習助成を活用しカルタ作りを行う。自分たちで作ったカルタ遊びをお世話になった地域の方とやってみることで、さらに他者とのつながりが深くなっていく。

上記のような手だてを取り、自己理解・他者理解につながるような振り返りの工夫をしていく。

6 指導計画及び評価規準（18時間扱い）

次時	学習活動	指導上の留意点	主な評価規準(方法)	評価の観点	
				関	思気
一①	1 まちのことを話そう ・地域のことで知っていることや興味のあること、ふしぎに思っていることなどを紹介し合う。 ・もっと知りたいことや見たいことを話し合う。	・日ごろの地域でのかかわりな どから「確かめたい」「もっと 見つけたい」という探検への興味・関心が高まる投げかけをする。 ・子どもたちに出会いたい人や繰り返しかかわらせたい場所などは教師が意識して、あらかじめ写真などを用意しておく、子どもの興味を喚起する。	・身近な地域の人々やさまざまな場所に興味をもち、見たり 調べたりしようとしている。(発表) ・自分がこれまでにかかわった 地域の人や場所の中から、友 達に知らせたいことを選んだり、ふしぎに思っていることを考えたりして、友達と紹介 し合っている。 (発表・観察)	◎	○
二② ④	2 まちたんけんの計画を立てよう ・行きたい場所を決め、グループに分かれる。 ・地域に出かける際に、守らなければいけないルールやマナー、気をつけることなどを話し合う。 ・探検する道順や持ち物などを話し合い、見たいものや聞き	・見たいものや確かめたいことを考えさせ、児童ひとりひとりに、探検への目的意識をもたせる。 ・計画を話し合い、安全に気をつけることを確認し、カードにかかせる。特に緊急のときにグループでどのように対応するの かを確認しておく。	・まち探検の計画を立て、準備 をしようとしている。(観察) ・友達と相談して、行きたい場 所や会ってみたい人を決め、相手や場に応じた適切な行動 や、安全な行動について考えながら、探検の計画を立てている。 (観察・発表)	○	◎

	たいことなどを確認し、探検カードなどにかく。	・帰宅時のうがい、手洗など、衛生面の指導を徹底する。			
三	⑤ 3まちたんけんに行こう ～ ⑧ ・グループごとに、計画に沿って探検する。 ・地域にあるものや人、場所と かかわる。 ・見つけたものや人、聞いたり 気付いたりしたことなどを、友達や先生に伝えたり、記録カードなどに いたりする。	・保護者の協力を得る際には、学 習のねらいをきちんと伝え、役 割分担や子どもたちにどのよう に接するかなどを確認しておく。 ・地域の音やにおいなどにも視点を当てるとよいことに気付かせ、諸感覚を使った活動としたい。 ・公共物を利用したり地域の人インタビューをしたりすることを奨励する。	・グループで決めた探検する人 や場所に関心を持ち、ルール やマナーを守って、まち探検 をしようとしている。(観察) ・地域には、生活している人や 仕事をしている人がいること が分かるとともに、彼らが自分の生活とかかわっているこ とに気付いている。 (観察・発表)	○	◎
四	⑨ 4 まちのことをつたえ合おう ～ ⑬ ・まち探検で見つけたことを、 グループごとに振り返り、みんなに伝えることを決める。 ・内容に適した表現方法を考え、伝えたい内容をまとめ、伝え合う準備をする。 ・自分たちが新たに見つけたことや、解決したふしぎを友達と伝え合い、まちの情報を共有する。	・地域のことを、分かりやすく伝 える方法を工夫させる(どんな ものか、何のためにあるのかな どの視点を大切にする)。 ・今回のまち探検で見つけたことや分かったことを、秋の町探検につなげていく。 ・お世話になった方に、手紙を書かせる。(国語) ・地域カルタを作成する。 ・地域カルタ大会を行う。	・探検したことを振り返り、そ の中から友達と伝え合いたい ことを相談して選び、適切な伝え方を選んで、友達と伝え合っている。(発表) ・地域にはさまざまな場所があり、そこには多様な人々が生活していたり、さまざまな仕事に携わっている人がいたり することに気付いている。 (観察・発表)	○	◎

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none">・ 写真は、児童が撮った写真を活用するようにした。・ 写真に俳句を作る学習を進めた。できた俳句をそのままカルタの読み札にするようにした。・ 地域の方とのふれあいを重視した。発表会、カルタ大会にお世話になった方を招待し、つながりを深めた。
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none">・ グループごとに児童が写真を選び、検討しながらカルタ作りをしていった。写真の印刷に時間がかかった。
<p>(3) 児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none">・ 発表を通して、地域の良さを知ることができた。学区外の児童が多いので、地域を知るための良い機会となった。・ 発表会、カルタ作りで地域の方に褒めてもらうことで、自信を持つことが出来た。・ 子どもたちが取った写真、読み札でのカルタのため、全てオリジナルである。家に持ち帰り、カルタ取りをしたようだ。家庭でも町の良さを学ぶことができた。
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・ 長期間の学習であったが、生活科のまとめとして地域の良さを学ぶことが出来たので、取り組めてとても良かった。・ 他学年ともカルタ取りの交流ができた。良いモデルになったと考える。・ カルタ大会の様子が、ケーブルテレビや地元の新聞で取り上げられた。地域学習の啓発ができた。
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2年生でもデジタルカメラがあれば、十分に取り組むことが出来る。・ 取り札は、印刷ではなく直接書くことにした。枚数が多かったのもう少し少なくとも良かった。・ 今後も地域と連携したまちづくり学習を進めていきたい。